

浄法寺 森林事務所月記

編集・発行
岩手北部森林管理署
浄法寺森林事務所
二戸市浄法寺町
小池2-1
TEL0195-38-2033

平成二十五年神無月

日増しに寒さを実感するこの頃ですが、お変わりありませんか。皆さんも県道や国道を運転していると、丸太を満載した大きなトラックとすれ違うことがあると思います。そのなかには国有林の木を積んだトラックもあります。森林を育て、伐採し、市場に安定的な丸太供給をする。これが国有林野事業の柱、そして林業の大本たるところです。誤解してほしくないのは、搬出上の支障となる場合は除き、現在は天然林の伐採を行っていないこと。また皆伐（林全体の伐採）をするのは、分収造林地に限られていて、皆伐後は確実に植林などの更新作業をしているということです。資源を循環させ将来へ森林を繋いでいく。昨今、間伐の必要性が認識されてきましたが、その森林も先人たちが苗から育て上げてきた山なのです。それがいかに大変かは、この月記の読者の方ならすでにお分かりですね。

浄法寺地区の国有林の利用間伐は、7月から始まり現在も作業が続いています。間伐した木は、利用価値が高いものから順に建築用材・合板材・杭材・チップ材に仕分けされ、楡（はい）として製材業者向けに販売しています。来月はさらに森の中へ。伐採現場の最前線をご案内しましょう。

カンタン！楡（はい）丸太をまとめたものが出来上がるまで



①林内をフォワーダで土場まで運搬します。



②グラブで木口をそろえて重ねます。



③長さ・太さごとに積み分けて完成！トラックはこれを製材所まで運びます。



漆の里さんぽ

今月は漆を見
て・触れ
て・感じ
るイベント



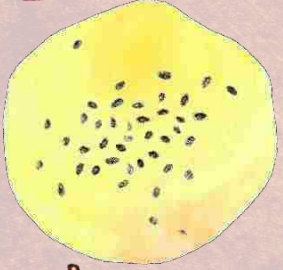
ト「めっせうるしさま」が浄法寺で展開され、19日には浄法寺漆共進会が開催されました。今年採取された漆が樽でずらーっと並び、漆掻き職人が一堂に会する催しです。会場は朝から漆の匂いでムンムン！採取時期ごとに並べられた漆をへらでかき起こし、上から垂らして状態を見る一樽毎の審査も行われていますが、素人目には正直その違いがよくわかりません：奥深い世界です。共進会は県内外から多くの漆関係者が訪れる機会という面もあります。現在浄法寺漆を使って修復中の日光東照宮の担当者や、数年前にはとある超有名人も見学に訪れました！わお。しかし以前ご紹介したように、手間暇かけて採取した漆の一滴一滴が集まって、この一樽になると思うと感慨深いものです。職人さんが樽を扱う手付きは、我が子を抱くようなものにも見えました。



上：樽いっぱい漆
下：審査の様子



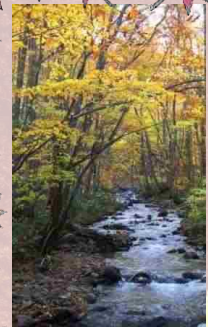
浄法寺 うまいもん



【食べられるお店】
伊藤煎餅店（神明神社近くの県道沿い）

【バターせんべい】

二戸と言えば南部せんべいが有名です。チョコやイカなど多彩なトッピングが楽しいですが、今回ご紹介するのはとっても素朴なおせんべい。まんまるで耳が無い、7センチほどの大きさの手焼きのバターせんべい。砂糖がちよつと入っているのがポイントだそうです。おばあちゃん家に入ったらありそうなホッとする味なんです。目立つ存在ではないけれど、このサイズが手に取りやすいのか、ぱくぱくやめられないとまらない……。いつのまにかおやつの主役になっているあなどれない一品です。



もあり、私も巡視がてら度々その美しさに魅了されてきました。緑の季節が終わって冬。足音が近づいています。

森林のスポットライト

今月下旬には里まで紅葉が降りてきて、私たちの目を楽しませてくれています。稲庭岳の水系にある芦名沢（あしなざわ）でも見頃のピークを迎えました。地元の方に「奥入瀬溪流のように美しい」と親しまれています。芦名沢は、約6キロの区間で沢沿いに林道が走っています。途中には砂防堰堤から沢水が滝のように流れ落ちる場所

